

プロローグ

それは、その日の朝
起きたときのことでした

キョウ..

キョウ..

うーん

ぽー

おはよう

おきた

かたぎり まごころ
片霧 真心 高校2年生



え？
おなかの中から
声がする？

キン
コン...

うん、そうなの
朝起きたら
私…恐くって

どうしよう
京くん

京くんは
本名、京橋堂清政くん
私の幼なじみで

ふむ

大きな
病院の
一人息子で
体のことに
くわしくて
頭が良いんです

俺には何も
聞こえない
けどな

私のおなか
だけじゃなくて

お父さん、お母さんや
クラスの人々からも
聞こえてくるの

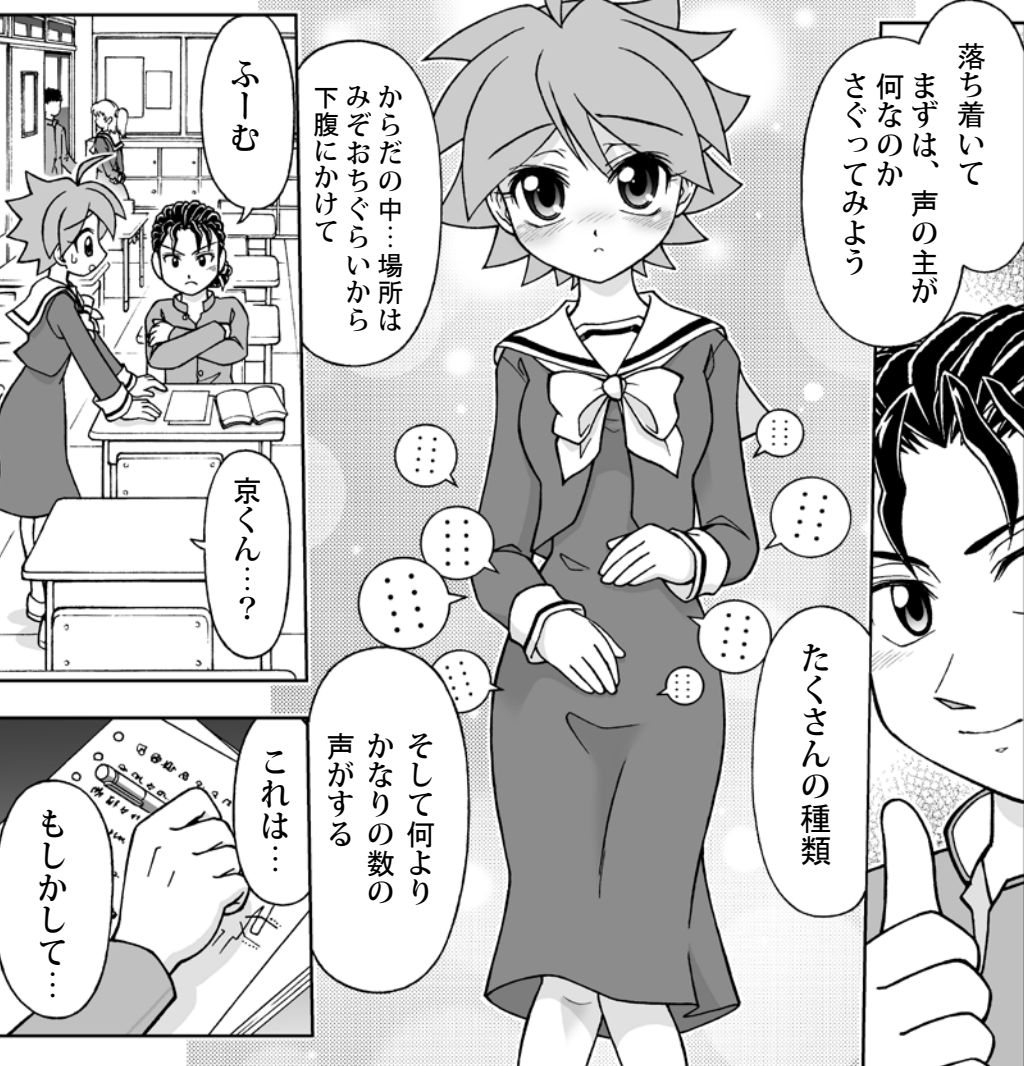


お前、まいんは
子供のころからよく
他の人には
聞こえないことが
聞こえちゃったり
見えないものが
見えたりするからな

今回もその
たぐいの
ひとつだろう

ホントお前は
不思議ちゃんとい
うか
妖精ちゃんというか

まっ
ともかくだ



落ち着いて
まずは、声の主が
何なのか
さぐってみよう

たくさんの種類

からだの中…場所は
みぞおちぐらいから
下腹にかけて

そして何より
かなりの数の
声がある

ふーむ

京くん…?

これは…

もしかして…